

授業科目名・形態	ソーシャルワーク論Ⅴ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	小野 聡子	実務経験の有無	無	開講期	3年前期

【授業の主題】

ソーシャルワーカーは社会の中で生きる個人を支援している。人間は人と人の中で生きる。そのため、ソーシャルワーカーが支援する対象は個人でもあり、集団・組織でもあり、地域社会でもある。本講は、個人を取り巻く集団及び社会資源を活用した相談援助の展開及びその技術について習得することを目的とする。

【到達目標】

- 1) ソーシャルワークの価値・知識・技術を活かした多職種・多機関との連携（権利擁護活動を含む）について、ケアマネジメントの事例から確認できる。
- 2) グループを活用した相談援助技術について、グループワークの展開過程から具体的に記述できる。
- 3) スーパービジョンとコンサルテーションの技術について、状況設定場面から適用することができる。
- 4) 地域を基盤とした援助システムについて、社会資源の活用・調整・開発の観点から具体的に記述できる。
- 5) 多職種・多機関との連携に向け、他職種の業務内容について記述できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 相談援助における対象の理解
- 第3回 相談援助のためのアウトリーチの技術
- 第4回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）①
- 第5回 ケースマネジメント（ケアマネジメント）②
- 第6回 グループを活用した相談援助①（グループワークの意義と展開過程）
- 第7回 グループを活用した相談援助②（自助グループ／サポートグループ／結成への支援と連携）
- 第8回 コーディネーションとネットワーキング①（コーディネート）
- 第9回 コーディネーションとネットワーキング②（ネットワーキング）
- 第10回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発①（意義と目的／調整・開発の方法と留意点）
- 第11回 相談援助における社会資源の活用・調整・開発②（ソーシャルアクション）
- 第12回 スーパービジョンとコンサルテーションの技術①（スーパービジョン）
- 第13回 スーパービジョンとコンサルテーションの技術②（コンサルテーション）
- 第14回 ケースカンファレンスの技術①（ケースカンファレンスの意義と目的／運営と展開過程）
- 第15回 ケースカンファレンスの技術②（ケースカンファレンスの実際／評価と普遍化）

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行う。

【授業準備】

- ①受講するすべての学生は各回の授業において参照する教科書の該当ページを「授業前に一度は読んでくること」
- ②余裕のある学生は教科書の該当ページにおけるわからない語句などを「専門書や辞典などを用いて調べておくこと」
- ③社会福祉専門職になろうとする高い意欲のある学生は、日頃から新聞などで報じられる社会福祉に関する問題に関心を持ち、「社会問題とソーシャルワーク専門職との関係について確認すること」

【主な関連する科目】

高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワーク論Ⅱ～Ⅵ、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ など

【教科書等】

社会福祉士養成講座編集委員会編：相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ（第3版）、中央法規出版、2016。

【参考文献】

- ・佐藤信人：ケアプラン作成の基本的考え方、中央法規出版、2008。
- ・生活アセスメント研究会編：福祉・介護に求められる生活アセスメント、中央法規出版、2007。 など

【成績評価方法】

授業態度（主体的な授業参加度を重視する）10%、中間レポート40%、期末試験（筆記）50%で評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

自分の身近な地域に関心を寄せ、地域で暮らすクライアントにはどのような生活問題があるのかを考えることが出発点となります。そして、問題を解決するためにどのような社会資源の活用・調整・開発が行われているのかを考えてみましょう。地域生活を支えるための社会資源の中には、そのように深く考えようとするあなたも含まれます。